

2020 年度

(2020 年 4 月～2021 年 3 月)

学校関係者評価委員会

学校法人田中育英会

東京エアトラベル・ホテル専門学校

学校法人田中育英会 東京エアトラベル・ホテル専門学校では『2020年度自己評価報告書』に基づき「学校関係者評価委員会」を開催しましたので下記の通りご報告いたします。

東京エアトラベル・ホテル専門学校
校長 増田 浩美

記

- 1) 日 時 2022年3月25日(金) 15:30~17:00
- 2) 場 所 小金井校舎 2F 会議室
- 3) 出席者 学校関係者評価委員
明石 伸子(NPO 法人 日本マナー・プロトコール協会 理事長)
邵 康銘(卒業生)
高橋 保雄(高輪プリンスホテル 総務部 GO TO トラベル事務局へ出向中)
横田 幸一(株式会社リビエラ 総務部次長)
和木 恭子(卒業生)
学校側出席者
学院長 亀田 俊夫
校 長 増田 浩美
学生部長 福井 成明
- 4) 委員会次第
 - (1) 開会
 - (2) 校長 挨拶
 - (3) 学生部長 コロナ禍における本校の教育の現状、今後の方針説明
 - (4) 審議 自己評価報告書の各規準項目に対する委員からの意見・助言
 - (5) 学院長 挨拶
 - (6) 閉会
- 5) 規準項目ごとの各委員からの意見・助言
 - 1 学校の教育目標
特に意見なし
 - 2 本年度の定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
特になし
 - 3 評価項目の達成及び取組状況
 - (1) 教育理念・目標
 - ②今後の改善方法
：「学生はもちろん保護者にも連絡できるツールを設ける」を追記
⇒コロナ渦で保護者への連絡は迅速が望まれるため、郵送以外にも考える

(2) 学校運営

特になし

(3) 教育活動

②今後の改善方策

：「全学科に装着したゼミでは、外部の方に向けて提案をし、厳しい評価を受けることで探究の必要性を実感することも必要と考える」追記

⇒教員たちによる評価ではなく、社会からも評価を得ることで意欲湧く。

③特記事項

：「コロナ渦で、体系的に行っているインターンシップ等が、実施することが難しい状況となった」

⇒コロナ渦での取り組みが難しかったことがリアルに伝わる。

(4) 学修成果

②特記事項

：「コロナ渦により、就職活動が思うように行えない学生に対する対策として、1年間研究科で学ぶという選択をする学生もいた。就職率は、希望者の98%。

⇒コロナ渦で、観光業界全体的に苦労している中、きちんと対策が取れていることを明記する。

(5) 学生支援

③特記事項

：「コロナ渦でクラブ活動に制限が出たこともあったが、学生主体のオープンキャンパス、TECHNOS祭、TECHNOS展などPBLを接客的に動かした」

⇒活動が制限される中でも、感染対策を取りながら取り組んでいたことを明記する。

(6) 教育環境

③特記事項

：「登校型授業が開催できない期間は、オンライン授業を充実させ、学びの機会の継続を図った」

⇒コロナ渦においても、学生の学びを止めないために最善の方法を見つけ実施したことを明記する。

(7) 学生の受入れ状況

③特記事項

：「他校が対面でのオープンキャンパスを行っていても、参加者の安心・安全を考え、オンライン中心で行った」

⇒安全・安心を第一に考え、クラスターを発生させなかったことも明記する。

(8) 財務

特に意見なし

(9) 法令等の遵守

特に意見なし

(10) 社会貢献・地域貢献

⇒コロナ渦であったため指標を4→3へ下げるべき。

(11) 国際交流

③特記事項

：「2020年度は、オンラインでの実施となった。」

⇒渡航型の国際交流が出来なくても、オンラインで行うなど、新しい形を作ったことを明記する。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ：コロナウイルス感染拡大に伴い、現在はオンライン授業と対面授業を組み合わせたハイブリット授業を実施しているが、今後も学生・教職員の安心、安全を確保しながら、社会の変化に対応した専門教育を推進していただきたい。
- ：オンライン授業の実施に際して、全学生に通信環境のアンケートを実施。全学生に一律3万円を支給、特殊なPCは学校が購入し学生に貸与するなど、学生への学修支援は手厚いものである。
- ：他の専門学校とは差別化が図られているので、もっとHPや学校案内で訴求することが望ましい。
- ：オンライン授業の導入により専門学校概念も変化せざるを得ないが、テクノスカレッジの存在意義は全く変わらず揺るぎないものである。
- ：専門学校ではあるが、全学科のカリキュラムに「社会課題に挑戦する」ゼミを導入するなど他校との差別化になっている。

以上